



ふかだ 深田のぼる 後援会ニュース

第21号 2018年9月 発行

「情報活用能力」を育むための計画的な環境整備を求めています

全国どの地域でも一定水準の教育を受けられるよう文部科学省が定める基準「学習指導要領」が改訂されます。生活でも仕事でも、情報を集め・選び・使うことが当たり前の社会に適應する人材を育てるため、今回の改訂では「情報活用能力」が、より基礎的で重要な能力と位置づけられます。

国の狙い通りに「情報活用能力」を育ていくために、沼津市を含む全自治体でICTを活用できる環境の整備が必要となっています。

ICTは「Information and Communication Technology（情報通信技術）」の略で、情報処理だけでなくインターネットのような通信技術を利用した産業やサービス等の総称です。（かつて日本で普及した用語ITとほぼ同義）

「情報活用能力」の位置づけの変化

現在

教科目標を学習する過程で身につければ良いもの。

新学習指導要領（小学校2020年度～、中学校2021年度～）

言語能力や問題発見・解決能力等と同様に「学習の基盤となる資質・能力」。教科横断的に習得させるべき、不可欠なもの。

全ての教科で、大型TVやプロジェクタなどの大型提示装置やデジタル教科書などのICTを使った学びが求められます。必要に応じたタブレットやインターネットの活用も求められます。

例えば「国語でローマ字を学ぶ際、合わせてローマ字入力を学ぶ」、「社会科でコンピュータを活用して情報収集・まとめをする」などの学びの形が求められます。

しかしながら、現状は環境整備が十分でなく、いつでも不自由なく、授業・学習支援にICTを活用できる状況にはありません。新学習指導要領への対応は まだまだこれからです。

ICT環境整備の状況

項目	文部科学省「5か年計画」の水準 (2018年度～2022年度)	沼津市の状況
学習用コンピュータ（児童生徒用）	3クラスに1クラス分程度	各学校に1クラス分
指導用コンピュータ（教師用）	授業を担当する教師1人につき1台	各学校のパソコン室に1台、小学校にはタブレットが各1台
大型提示装置	小・中学校の各普通教室に1台、特別教室用として6台	プロジェクタが各学校に2台、電子黒板が各学校に1台
実物投影機	小学校の各普通教室に1台、特別教室用として6台	小学校に各1台
超高速インターネット及び無線LAN	全学校に整備	整備済み
統合型校務支援システム	全学校に整備	整備済み
ICT活用支援員	4校あたりに1人配置	なし

新学習指導要領の実施にICTは必要不可欠です。環境が整っていないければ、教えられないし、学べません。学校の設置者である自治体には、責任をもって環境整備を進めていく義務があります。

整備計画の早急な策定や推進体制の構築など、国が求める水準を満たす環境整備を計画的に進めていくよう、引き続き求めています。



議会・議員活動のICT化に取り組んでいます

ICTの活用は 企業や教育現場だけでなく全国の議会でも取り組まれています。委員長を務める議会活性化等特別委員会においても、議会・議員活動のICT化に関する調査・研究を進めています。

ICT化の目的

議会・議員活動の充実や効率化 ⇒ 市民福祉の向上・市勢の発展

活用するICTは、タブレット端末等（情報管理／会議支援システム、グループウェア）や、大型提示装置などがあります。

ICT化により充実や効率化が期待できる活動の例



市民相談対応



行政当局への
要望活動



連絡、調整、
スケジュール管理



市民への
情報発信



報告会や
意見交換会



調査・研究



議会・行政間の
情報提供／共有



議案審議
一般質問



議会・議員活動のICT化は、活動の充実や効率化の一つの手段になりえます。引き続き、実現に向けた調査・研究を進めていきます。

長期休みの子ども の居場所づくり

核家族化や共働きを理由として、昼間家庭に保護者がいない子どもが増えています。学校のある日は放課後児童クラブに通うなどできますが、クラブには定員があり、入所したくても入所できない状況も発生しています。留守番や習い事などでの対応もありますが、困るのは夏休みなどの長期休みです。

長期休みの居場所づくりについては、公共施設の開放や学校図書館の開放日増、児童館の設置などの対応を求め、ほんの少しだけ進んできた感がありますが、これらと併せて声をあげてきたことがあります。地域と連携した、地域ごとの居場所づくりです。

この夏休みに地域の公会堂を開放しての居場所づくりを試行しました。週2回の実施で、1回あたりの開放時間は3時間です。ボランティア見守りのもと、子ども達は勉強や遊びの道具を持ち寄り、自由に活動しました。

子ども達の居場所・子ども同士や子どもと地域の方々との交流の場として、意義ある取り組みだったと感じています。今後、他地域の賛同を得た上で同様の枠組みを横展開していけたらと考えています。



深田のぼるよりひとこと

学校教育におけるICT環境の整備については、個人としての活動だけでなく、問題意識を共有する議員との連携や、所属する文教産業委員会としての調査活動など、より組織的な対応も並行して進めています。学校現場の実状をしっかりと押さえつつ、課題解決につながる政策提言となるよう、仕上げていきたいと思ひます。

ご意見・ご要望がありましたら、後援会事務局までご連絡ください。

